

2 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

(1) 特定植物群落が生息する自然豊かな鳥海山

子吉川の流域上流部に位置する容姿端麗なコニーデ式の鳥海山の山麓は、鳥海国定公園に指定されている。国定公園内にある“^{おおしみず}大清水湿原の植生”・“鳥海山の植生”のほか、“^{そでかわ}袖川のシロヤナギ林”や“^{さんたき}三滝山のブナ林”などが特定植物群落として指定されている。

また、鳥海国定公園内の“^{ほつたい}法体の滝”は、秋田県名勝地の第一号に指定され、ピクニックやキャンプ地として利用されている。

鳥海山の山頂付近には、高山低木林、雪田草原、ササ - ダケカンバ林などが分布し、チョウカイフスマ、ヒナザクラ、イワイチョウ、ハクサンオオバコなどの高山植物が咲き競う。鳥海山には約 120 種の高山植物があると言われ、その中にはチョウカイフスマ、チョウカイアザミ、チョウカイチングルマなど、鳥海山でしかみられない固有種も存在する。

中腹には広大なブナ林の他にミズナラ林が分布し、湿原にはコバイケイソウ、ミズバショウなどの群落もみられる。

鳥海山から流れて海に至る間の平野部は、クリ-ミズナラ林やスギ植林を主体とした丘陵地と広い水田地帯となっている。

【自然豊かな鳥海山の様子】



【ブナの原生林】



【チョウカイフスマ((鳥海衾))】



- ・秋田県: 絶滅危惧種 IA 類 (CR)
- ・環境省: 絶滅危惧 II 類

出典:「鳥海山トレック HP」

(2) 県緑地環境保全地域の指定を受けた石沢峡

石沢峡は、大槩地区にある自然美あふれる渓谷である。切り立つ断崖が約 8 km も続き、その途中にびょうぶ岩などの奇岩も数多く見られる。

石沢峡の奥にある石沢大滝は、流れ落ちる水の量も豊富で、高さ 18m からの豪快な落水を楽しむことができる。滝から漂う霧は、岩や苔を濡らし、その景色は趣深いものがある。春は新緑、夏は避暑、秋は鮮やかな紅葉で多くの人を魅了し、四季にわたって美しい景観が見られる。昭和 59 年に県緑地環境保全地域に指定され、渓谷のほかに特定群落であるケヤキ群落がその保全対象となっている。

【石 沢 峡】



【石 沢 大 滝】



(3) 常緑広葉樹林を特徴づけるタブノキ林の北限

子吉川流域の海岸部は、秋田県内で最も温暖な地域で、常緑広葉樹林帯を特徴づけるタブノキ林が象瀉町、金浦町、仁賀保町に点在し、本荘市親川が北限となっている。

また、河口部周辺に分布しているクロマツ林は、昔の子吉川の趣を残す原風景として、住民に親しまれている。しかし、近年、松くい虫による被害が発生し、問題となっている。

【クロマツ林】



出典：秋田河川国道事務所資料

2-2 河川およびその周辺の自然環境

(1) きれいな川

河川が汚れてくるとコイやフナ類が優占種となるが、子吉川の調査で多く出現した魚(優占種)は、ウグイとアユであり、マス類、アユ等の清澄な水を好む回遊魚が豊富に生息している。

これらの魚種が生息するということは、子吉川は水がきれいであり、また、生息のための瀬と淵があることを表している。

【アユ】(サケ目キュウリウオ科)



春から秋にかけて、主として川の中流域で生活するが、孵化した仔魚は秋に海に下り仔魚期を海で過ごす。

秋に海に降った仔魚は沿岸域に広く分布する。春になり河川に遡上したアユは、中流域の大石や岩盤のある瀬に縄張りを形成する。

両側回遊性のアユは、北海道西部以南に分布する。

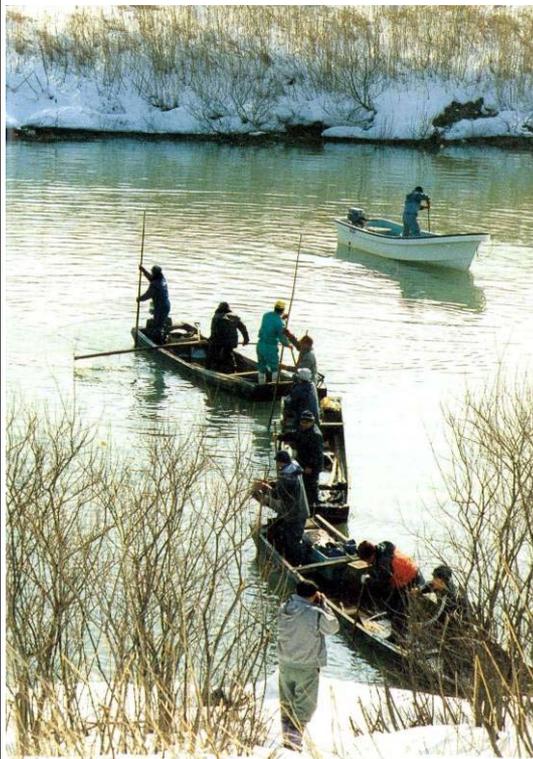
出典：秋田河川国道事務所資料

(2) 川魚の宝庫

春にはウグイの瀬つき漁が各地で行われ、秋には河口でハゼ釣り大会、真冬には下流でコイの追い込み漁が行われている。

上流ではイワナやヤマメ釣り、中流ではアユの友釣り、下流ではコイ、フナ、ウグイ、マハゼなどの釣りが盛んに行われており、カワヤツメ、シロウオ、モクズガニなども漁獲されている。

【伝統漁法：コイの追い込み漁】



棹で水面を叩いたり、川底をついたりして眠っているコイを驚かせて、仕掛けた網に追い込んで捕る。コイの動きが鈍い厳冬期(2月頃)に行う。

出典：秋田河川国道事務所資料

子吉川には子吉川水系漁協と矢島町漁協の2つの河川漁協があり、アユやコイなどの放流を行っている。石沢川と鮎川にはサケの孵化場があり、毎年3000尾前後の親ザケが捕獲され、300万尾を超える稚魚が放流されている。

このように子吉川に生息している魚は、多種多様であり、川魚の宝庫である。

(3) 全国的に絶滅の危機にある魚種が多く生息する川

環境省や秋田県では、河川の汚れや改修などにより魚の住み場所がなくなり、絶滅の危機に瀕している淡水魚類や汽水性魚類を、レッドリストとしてとりまとめ、保護のための基礎資料としている。

子吉川に生息が確認されている魚種のうち、スナヤツメ、アカヒレタビラ、ウケクチウグイ、アカザ、ギバチ、メダカ、カマキリ、カジカ中卵型、シロウオの9種類がレッドリストに掲載されている魚種であるが、数多くの生息が確認されている。

【スナヤツメ】[ヤツメウナギ目ヤツメウナギ]



- ・秋田県: 準絶滅危惧種 (NT)
- ・環境省: 絶滅危惧 II 類

本州中央部では1~3月、東北・北海道では雪解け水がおさまる5~6月に産卵する。全長は20cmに達する。

幼生・成魚とも水の澄んだ流れの穏やかな浅い細流に生息する。

北海道、本州、四国と鹿児島県・宮崎県を除く九州に分布する

出典：秋田河川国道事務所資料

【アカザ】[ナマズ目ギギ科]



- ・秋田県: 絶滅危惧種 IA 類 (CR)
- ・環境省: 絶滅危惧 II 類

産卵は、5~6月である。

水の比較的きれいな川の中流域~上流域の瀬の石の下や間に住み、石の隙間をかくぐるようにして泳ぐことが多い。礫底の中に深くもぐり込むこともある。

体長は15cmを超えることは少なく、体色は暗赤色ないし明るい赤褐色で変異が見られる。

出典：秋田河川国道事務所資料

【ギバチ】[ナマズ目ギギ科]



- ・秋田県: 準絶滅危惧種 II 類 (VU)
- ・環境省: 絶滅危惧 II 類

産卵期は6~8月である。全長12cm~25cmに達する。

上流域の末端部から中流域の清流で自然の多く残されている河川に生息する。

日本の固有種で、岩手・秋田両県下から神奈川県小田原付近および富山県までの本州、大淀川水系、九州西側各県に不連続に分布する。

出典：秋田河川国道事務所資料

【メダカ】[ダツ目メダカ科]



- ・秋田県: 準絶滅危惧種 (NT)
- ・環境省: 絶滅危惧 II 類

主に産卵期は4月上旬~10月上旬だが、水温の影響が大きい。雄が約3.1cm、雌は約3.4cmに成長する。

平地の池や湖、水田や用水、河川の下流域の流れの緩い場所に生息する。卵は水草などに産み付ける。

開発が進むにつれ棲み場が次第になくなり、また水質汚染や移入されたカダヤシとの競争などにより分布域は狭くなっている。

出典：秋田河川国道事務所資料

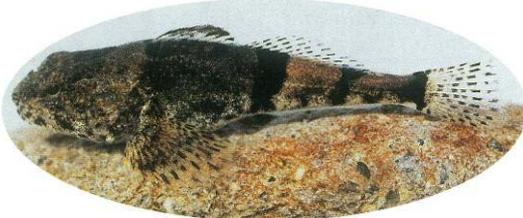
(4) 落差の大きい河川工作物のない川

海から稚魚で遡上してくるカマキリやカジカ中卵型は、遊泳力が弱いため、落差の大きい河川工作物を越えることは難しく全国的に激減傾向にある。

子吉川では、堰などの落差のある河川工作物は、子吉川直轄河川区間上流端(23.8km)よりさらに上流約700mに位置する滝沢頭首工(24.5km)まで存在しない。

したがって、河口から24.5kmまでは自然に近い河川状態となっており、遡上力の弱い魚も川をのぼり、大きな礫がある好適な環境で生活することができる。

【カマキリ】[カサゴ目カジカ科]



・秋田県:準絶滅危惧種 II 類(VU)

産卵期は1~3月で、沿岸付近に産卵する。
河川の中流~下流域に生息する。
日本海側は秋田県以南、太平洋側は神奈川県以南の各地に分布する。

出典:秋田河川国道事務所資料

【カジカ中卵型】[カサゴ目カジカ科]



・秋田県:準絶滅危惧種 IB 類(EN)
・環境省:絶滅危惧 II 類

2月下旬~5月上旬に流入河川の礫底にある浮石の下で産卵する。体長は12cmに達する。
孵化した仔魚は川を流れ下り、海でわずかな期間をすごした後に、川にもどり底生生活に移る。東北地方では、日本海側の河川に分布する。

出典:秋田河川国道事務所資料

(5) 水際にヤナギ林が連続する川

河口域を除いた区間の河岸にはヤナギ低木林が連続しており、魚類への餌となる落下昆虫の供給や日陰や隠れ場の形成などの機能を発揮している。

ヤナギの種類は、下流部からタチヤナギ、オノエヤナギ、ネコヤナギへと立地に応じて生育している。

【ヤナギ低木群落(オノエヤナギ)】



出典:秋田河川国道事務所

【ヤナギ低木群落(ネコヤナギ)】



出典:「Botanical Garden」

2-2-1 河川の環境特性

子吉川を上・中・下流に分けて、各区分の特性について示す。区分については次のとおりである。

下流部: 河口(河口部を含む)

~ 新二十六木橋付近

感潮区間

中流部: 新二十六木橋付近

~ 23.8k 付近

(直轄管理区間上流端)

上流部: 23.8k 地点 ~

(山間部を含む)

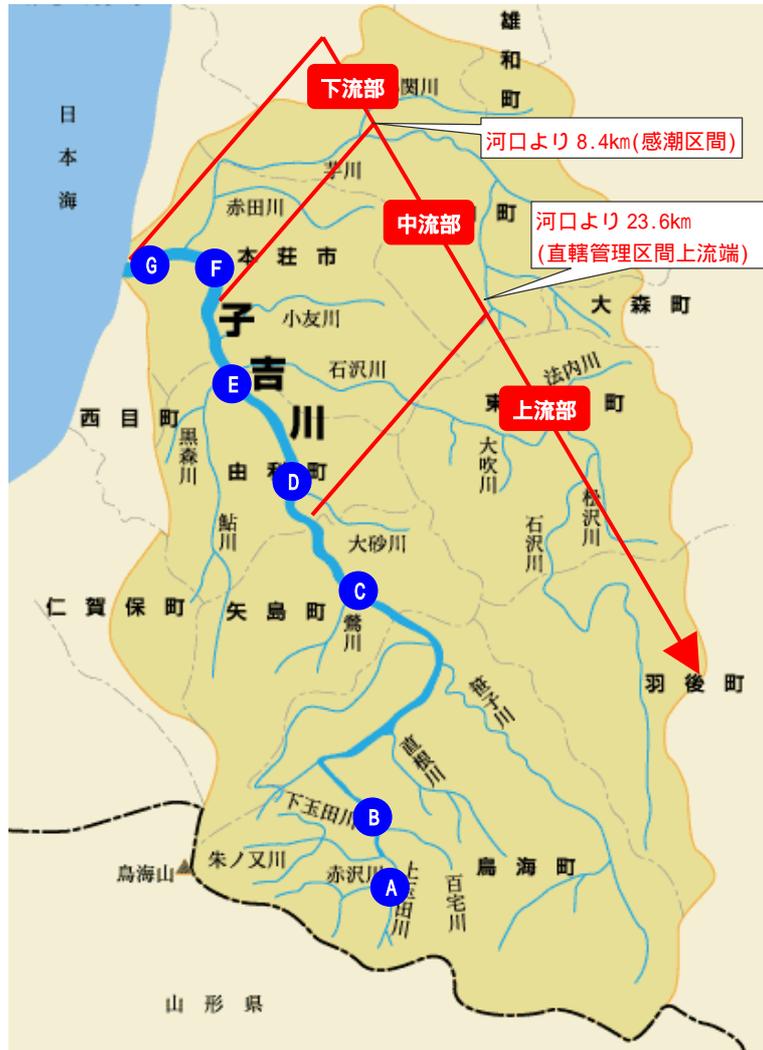


図 2-2-0 子吉川の河川区分図

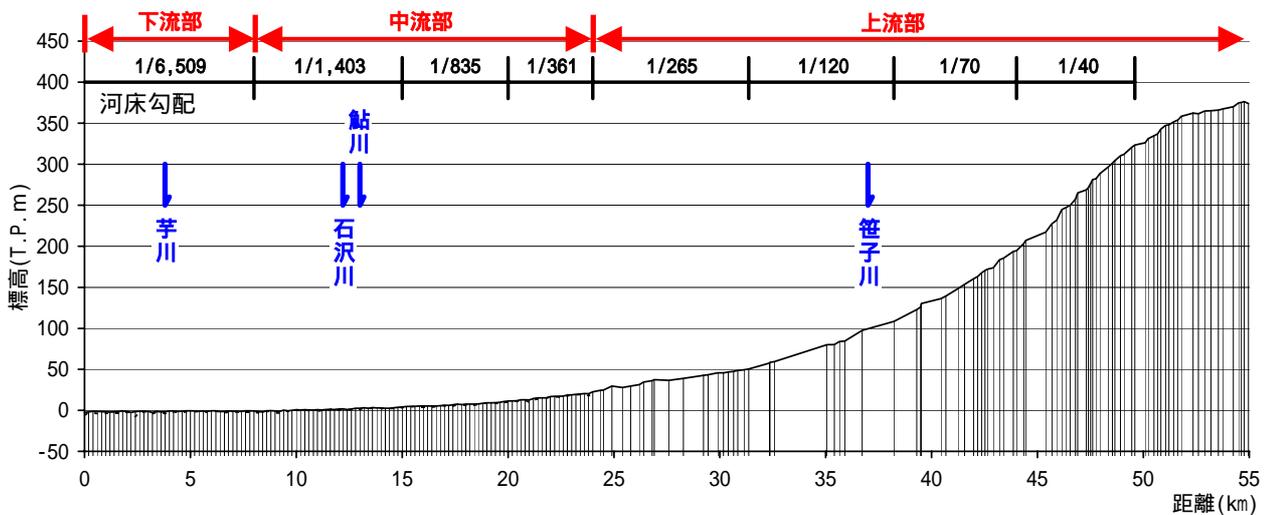


図 2-2-1 子吉川 河道縦断面図

(1) 上流部の環境

国定公園の指定を受けている自然豊かな鳥海山

子吉川の源流部には、東北地方を代表する自然豊かな鳥海山があり、昭和 38 年に国定公園の指定を受けている。また、鳥海国定公園内にある“大清水湿原の植生”・“鳥海山の植生”のほか、“袖川のシロヤナギ林”や“三滝山のブナ林”などが特定植物群落として指定されている。

水際部の植生としては、山間部ではクリ-ミズナラ群落やスギ植林等が目立つ。

ニホンカモシカをはじめとする多種多様な生物の住む上流域

哺乳類では、周辺の丘陵地を生息の拠点としているニホンリス、ホンドキツネ、ニホンカモシカ等が河川と隣接する樹林地で確認されているほか、両生類では樹林性のモリアオガエルなど、爬虫類ではトウホクサンショウウオなどの生息が確認されている。

陸生昆虫類では、中流域でも見られるオンブバッタ(バッタ目)などの草地性種に加え、ウラナミアカシジミ(チョウ目)などの樹林性種が確認されている。このほかにも、流水性のコオニヤンマなども確認されており、多種多様な種が生息している。

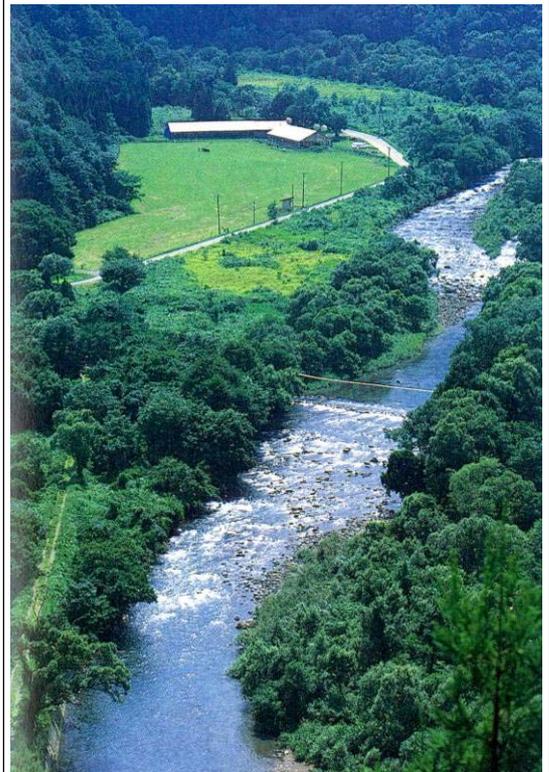
魚類の生息状況としては、山間部の溪流には主にイワナ、ヤマメなどが、やや勾配の緩くなる田園地帯では、主にウグイ、アユ、サケ、サクラマスなどの回遊魚が確認されている。サケ、サクラマスなどは上流部で産卵するが、アユは産卵に適した環境を求めて中流部に降り産卵を行う。

【A 子吉川源流部の赤沢川】



出典：秋田河川国道事務所資料

【B 子吉川上流部(鳥海町百宅)】



出典：秋田河川国道事務所資料

【C 矢島町大栗沢付近の子吉川】



【ニホンリス】[ネズミ目リス科]



・秋田県：留意種(N)

初夏から秋まで繁殖し、出産回数は年 1~2 回である。平野部から亜高山帯までの森林に生息するが、低山地の松林に多い。昼行性で主に樹上で生活する。

種子、果実、キノコ、昆虫、小鳥の卵などを食べる。

琵琶湖以西のものは、環境省 RDB 保護すべき地域個体群とされている。

出典：秋田河川国道事務所資料

【ホンドキツネ】[ネコ目イヌ科]



・秋田県：留意種(N)

繁殖期は 12 月～翌年の 2 月。出産期は 3~5 月である。草原性の動物で、広い広葉樹林帯はほとんど利用せず、森や草原が入り組んだ環境などに生息する。北海道を除く日本にすむアカギツネで、ノネズミ、ノウサギ、鳥類、爬虫類、昆虫類、果物、穀物まで幅広く食べるほか、まれにニワトリを襲うこともある。

本州、四国、九州に分布する。

出典：秋田河川国道事務所資料

【ニホンカモシカ】[ウシ目ウシ科]



・秋田県：留意種(N)、国の特別天然記念物

低山帯から亜高山帯にかけてのブナ、ミズナラなどが優占する落葉広葉樹林、針広混交林に多く生息する。南は九州、北は下北半島まで分布している。広葉草木、ササ類などを選択的に食べる。オスとメスは一夫一妻で結びついて、同じ縄張りを共有している。

本州、四国、九州に分布する日本固有種である。

出典：秋田河川国道事務所資料

【モリアオガエル】[無尾目アオガエル科]



繁殖期は 4~7 月下旬頃までである。

山間部から平野部までの森林に生息し、主に樹上で生活する。繁殖は、池沼、水田等で行う。

茨城県を除く本中の全ての県に分布する。

生息数は少なくないが、全国 20 箇所以上で繁殖地が天然記念物となっている。

出典：秋田河川国道事務所資料

(2) 中流部の環境

豊かな植生

水際には、ヨシ群落、オギ群落、ヤナギ低木群落が主に繁茂しており、オノエヤナギ群落等の高木群落は平野部にまとまって分布している。

河口から 11.4km の子吉川橋付近右岸では、環境省レッドデータリスト指定のノダイオウ、秋田県版レッドデータブック指定のコモチマンネングサが確認されている。

中流部で確認された陸生昆虫類としては、樹林性の昆虫類も多く、その種類も豊富である。また、ハグロトンボ、ミヤマカワトンボ、コオニヤンマ等の流水性のトンボ類が確認されている。

また、周辺を水田に囲まれた高水敷内のヨシ原や採草地には、草原性鳥類のオオヨシキリ、コヨシキリ、ヒバリ等が確認されており、オオヨシキリとヒバリが高密度繁殖地を形成している。8.4km の右岸のヨシ原はオオヨシキリの高密度繁殖地になっている。

アユの産卵床が存在する中流部

中流部では主に、ギンブナ、ニゴイ等の淡水魚、ウグイ、アユ、サケ、サクラマスなどの回遊魚が生息している。また、支川では環境省レッドデータブックの掲載種のスナヤツメ、アカヒレタビラなどの生息も確認されており、多くの淡水魚類が生息している。

適度に蛇行した河川には瀬と淵が連続する環境が形成されており、砂礫河床の早瀬はアユ等の産卵場や釣り場となっている。

産卵場として特に重要な地点は、鮎川合流点付近であり、内水面漁業調整規則により、産卵期中の 9/15～10/15 は禁漁区間に指定されている。

そのほか、ほとんどの淵がサクラマスの釣り場に、9.4km 付近及び 11.4km の子吉川橋付近はゴリの漁場に、10km 付近の小友川合流点下流部がヤツメの漁場になっている。

【D 由利町吉沢付近の子吉川】



出典: 秋田河川国道事務所資料

【E 鮎川との合流点】



出典: 秋田河川国道事務所資料

【ノダイオウ】



- ・秋田県：留意種(N)
- ・環境省：絶滅危惧II類

出典：秋田河川国道事務所資料

【コモチマンネングサ】



- ・秋田県：準絶滅危惧種(NT)

出典：秋田河川国道事務所資料

【オオヨシキリ】(スズメ目ウグイス科)



池や湖沼のまわりのヨシ原、河川沿いのヨシ原など、平地から山地までのヨシ原に生息する。

ウグイスに似ているが大形。背面は淡緑褐色で、眉斑(びはん)は淡く、腹面は黄白色である。

出典：秋田河川国道事務所資料



高水敷のヨシ原は、オオヨシキリの高密度繁殖地として利用されている。

また、鮎川合流付近にある早瀬はアユの産卵場となっている。

(3) 下流部の環境

海浜性植物の生息する河口部

河口部にある“水林のクロマツ林”は、特定植物群落として指定されている。

河口から3.0km周辺より上流の水際部の両岸にはヤナギ低木林が繁茂しているほか、秋田県版レッドデータブックに指定されているシロヨモギ、スナビキソウなどの砂丘植物やエゾウキヤガラ等の上流部では見られない海浜性の種が多く生育している。

河口から0.8km付近の右岸に存在する砂州を中心に海浜性、草地性の昆虫類が確認されている他、草地ではアカネズミ、アズマヒキガエルなどが、クロマツ林では、ニホンリスがそれぞれ確認されている。

また、河口部の広い静水域一帯にカルガモの集団越冬地が形成されている。

生息する魚種が豊富な川

河口から約8km上流にある新二十六木橋までの汽水域では、サッパ、コノシロ、スズキ、アシシロハゼ、ヌマガレイ、キビレミシマなど汽水域を好む魚が多く出現するほか、住民に親しまれているウグイ、アユ、サケなどの多くの魚種が生息している。また、0.8km付近右岸の砂州では秋田県版レッドデータブック指定のカマキリ、シロウオが確認されている。

河口部にはシロウオの産卵場があり、春には伝統漁法であるシロウオの持ち網漁が行われ、子吉川の風物詩となっている。

活発な河川利用

河口部ではウグイ、ボラ、マハゼ等の釣りが行われている。また、2月上旬にはコイの追い込み漁が、9月にはハゼ釣り大会が漁協・本荘市共催のもと開催されている。

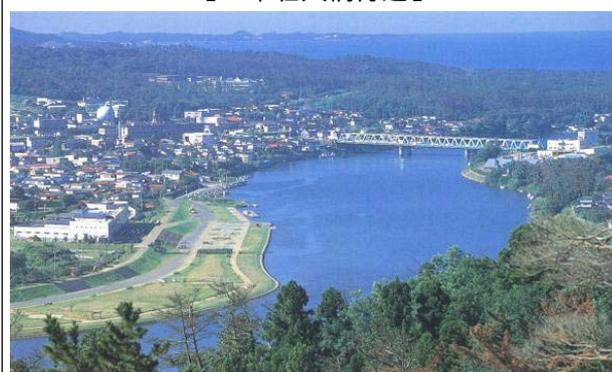
下流域での沿川土地利用は活発で、飛鳥大橋(河口より4.1km)より上流の高水敷は主に採草地として利用されている。また、飛鳥大橋より下流の高水敷には“癒しの川づくり事業”としてユニバーサルデザインの理念を取り入れた河川公園“せせらぎパーク”が整備されており、沿川住民の憩いの場となっている。

【F 本荘平野を蛇行する子吉川】



出典：秋田河川国道事務所資料

【G 本荘大橋付近】



出典：秋田河川国道事務所資料



出典:秋田河川国道事務所資料

【シロヨモギ】



・秋田県：準絶滅危惧種(NT)

【スナビキソウ】



・秋田県：準絶滅危惧種(NT)

【エゾウキヤガラ】



・秋田県：絶滅危惧種 類(VU)

出典:秋田河川国道事務所資料

【カルガモ】[カモ目ガンカモ科]



繁殖期は4月～7月である。

川、池、沼、湖などの水辺や水田、ヨシ原などの湿地、埋立地などに数多く見られる。

淡水性のカモであり、冬季は大きな群れをなし安全な湖沼、川、公園などで休むことが多い。コガモと混群になることがあるが、多くはカルガモだけの群である。

出典:秋田河川国道事務所資料

【シロウオ】[スズキ目ハゼ科]



・秋田県：準絶滅危惧種(NT)

・環境省：準絶滅危惧種

春までは海岸線がくぼんだ波の穏やかで水のきれいな沿岸に生息する。春になると、水がきれいで伏流水の豊かな下流域へ産卵のために上ってくる。5mm程度の仔魚は海に入り、沿岸域で生活し成長する。

北海道南部から鹿児島県までの日本各地に分布する。

出典:秋田河川国道事務所資料

2-2-2 子吉川における特定種

子吉川における特定種を、河川水辺の国勢調査等の調査結果をもとに、レッドデータブック・レッドリスト(環境省)記載種、天然記念物指定種等の学術上または希少性の観点から抽出した。

表 2-2-1 子吉川における特定種の選定基準一覧表

番号	法令・文献の名称	記号	カテゴリー区分
(1)	「史跡名勝天然記念物指定目録」文化庁(1989)	特天	
(2)	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」	保存	
(3)	「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(植物、両生類・爬虫類)」-レッドデータブック-環境庁編(2000)	EX	絶滅種
		CR	絶滅危惧 IA 類
		EN	絶滅危惧 IB 類
		VU	絶滅危惧 II 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のあるおそれのある地域個体群
(4)	「レッドリスト 汽水・淡水魚類、昆虫類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類」環境庁編(1997~2000)	EX	絶滅種
		CR	絶滅危惧 IA 類
		EN	絶滅危惧 IB 類
		VU	絶滅危惧 II 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のあるおそれのある地域個体群
(5)	「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」水産庁編(1988)	絶危	絶滅危惧種
		危急	危急種
		希少	希少種
		地域	地域個体群
(6)	「秋田県版レッドリスト 淡水魚類、水生昆虫、維管束植物、鳥類、昆虫、両生・爬虫類、哺乳類」秋田県(1999~2002)	EX	絶滅種
		EW	野生絶滅種
		CR	絶滅危惧種 IA 類
		EN	絶滅危惧種 IB 類
		VU	絶滅危惧種 II 類
		NT	準絶滅危惧種
		DD	情報不足種
		LP	地域個体群
N	留意種		
(7)	「第 1 回 自然環境保全調査報告書」環境庁編(1976)	主要	主要野生動物
(8)	「第 2 回 自然環境保全調査報告書」環境庁編(1983)	指定	指定種
		指標	指標昆虫類
		特定	特定昆虫類
(9)	「その他の注目すべき生物種」	注目	注目される種

表 2-2-2(1) 子吉川で確認された特定種一覧表

分類	番号	種名・群落名	選定根拠									生息環境等	確認地点		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		下流	中流	石沢川
植物	1	ノダイオウ			VU			N				湿地,水路			
	2	ハマツメクサ						NT				海岸砂丘			
	3	オカヒジキ						NT				海岸砂丘			
	4	ケキツネノボタン						VU				日当たりのよい湿った草地			
	5	コモチマンネングサ						NT				林床,畑の縁,路傍			
	6	スズサイコ			VU			N				日当たりのよいやや乾いた草地,堤防			
	7	スナビキソウ						NT				海岸砂丘			
	8	オオヒナノウスツボ						NT				日当たりのよい草地や林縁			
	9	シロヨモギ						NT				海岸砂丘			
	10	メタカラコウ						NT				湿った草地			
	11	ニラ						EN				草地,崖地			
	12	エゾウキヤガラ						VU				海岸近くの草地			
鳥類	1	カンムリカイツブリ						NT				海岸,河川,池沼			
	2	ササゴイ						NT				河川,湖沼,水田			
	3	ダイサギ						DD				河川,湿地,湖沼,水田			
	4	コサギ						DD				河川,湿地,湖沼,水田			
	5	オシドリ									注目	山間の河川,湖沼			
	6	ミサゴ				NT		NT				海岸,河川,湖沼			
	7	ハチクマ				NT		VU				低山帯			
	8	オオタカ		保存		VU		NT				平地~山地の林,耕作地			
	9	ハイタカ				NT		VU				平地~山地の林,河川敷,耕作地			
	10	サシバ						NT				丘陵地や低山地の樹林			
	11	コチョウゲンボウ						VU				耕作地			
	12	チョウゲンボウ						NT				耕作地,河川敷			
	13	イカルチドリ						NT				河川,湖沼,水田			
	14	カワセミ								主要		河川,湖沼			
	15	コシアカツバメ						NT				海岸線の住宅地			
	16	アカモズ				NT		VU				海岸近くの樹林			
	17	コサメビタキ						NT				落葉広葉樹林			
	18	イカル						NT				丘陵地の落葉広葉樹林			
両生類・爬虫類・哺乳類	1	トウホクサンショウウオ								主要	指定	細流,止水域			
	2	モリアオガエル								主要	指定	池沼付近の樹林			
	3	カジカガエル								主要		河川中,上流域の川原			
	4	ニホンリス						NT				平地,亜高山帯の樹林,河畔林			
	5	キツネ						N				平地,亜高山帯の樹林,草原			
	6	ニホンカモシカ	特天					N				平地,亜高山帯の樹林			

表 2-2-2(2) 子吉川で確認された特定種一覧表

分類	番号	種名・群落名	選定根拠									生息環境等	確認地点			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9		下流	中流	石沢川	
陸上昆虫類	1	ハグロトンボ										注目	流水の水際部			
	2	ムカシヤンマ										指標	丘陵の山裾			
	3	クマコオロギ										注目	水田の縁, 湿った草地			
	4	ヤマトシジミ										特定	平地の陽地			
	5	アカウラカギバ										注目	平地, 山地			
	6	ウラナミヒメシャク										注目	(不明)			
	7	ヒメツマキホソバ										注目	(不明)			
	8	ギンモンセダカモクメ										特定	注目 平地の陽地			
	9	キマダラコヤガ										注目	平地の陽地, 荒れ地			
	10	ハイマダラコヤガ										注目	(不明)			
	11	オオシラナミアツバ										注目	(不明)			
	12	カバイロキヨトウ										注目	(不明)			
	13	タケアツバ										注目	平地, 丘陵地			
	14	ベーツナガゴミムシ										注目	平地, 山地の樹林			
	15	コルリアトクリゴミムシ										注目	(不明)			
	16	アオバネホソクビゴミムシ							CR				湿性の草地			
	17	ゲンジボタル										指標	清涼な小河川			
	18	クロアシコメツキモドキ										注目	(不明)			
	19	クロマダラカメコノハムシ										注目	平地の陽地, 荒れ地			
	20	スナムグリヒョウタンソウムシ										注目	海岸, 河口の砂浜			
	21	キタノミゾウムシ										注目	(不明)			
魚介類	1	スナヤツメ					VU	希少	NT				澄んだ流れの砂泥底			
	2	アカヒレタビラ						希少	NT				河川の緩流域, 止水域			
	3	ギバチ					VU		NT				澄んだ流れの礫底			
	4	アカザ					VU		CR				澄んだ流れの礫底			
	5	メダカ					VU		NT				河川の緩流域, 細流			
	6	カマキリ							VU	主要	指定		澄んだ流れの礫底			
	7	カジカ中卵型					VU		EN				澄んだ流れの礫底			
	8	シロウオ					NT		NT				きれいな砂礫底に産卵			
	9	ウケクチウグイ					EN		DD							
	10	マルタニシ					NT						河川緩流域の砂泥底			
底生動物	1	コシボソヤンマ							CR				植物が繁茂した緩流			
	2	ミヤマサナエ							NT				澄んだ流れの砂泥底			
	3	ホンサナエ							CR				河川緩流域の砂泥底			
	4	アオサナエ							CR		特定		平地, 丘陵地, 低山地の清流			

ウケクチウグイは、芋川で捕獲実績があるため記載した。

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 文化

(1) 名勝および天然記念物

子吉川流域内には、国指定の天然記念物は存在しないが、県指定の名勝および天然記念物としては、次の8物件がある。

表 2-3-1 子吉川流域の名勝および天然記念物

市 町 村	指 定 区 分	名 称	備 考
鳥 海 町	名勝および天然記念物	法体の滝および <small>あうけつ</small> 甌穴	(S35)
	天然記念物	直根のイチイ	(S35)
	"	千本カツラ	(S35)
矢 島 町	天然記念物	鳥海 <small>むら</small> 叢スギ原生林	(S48)
東 由 利 町	天然記念物	法内の八本杉	(S59)
	"	岩館 <small>いわだて</small> のイチョウ	(S57)
大 内 町	天然記念物	葛岡 <small>くずおか</small> のカスミ桜	(S34)
	"	堀切 <small>ほりきり</small> のイチョウ	(S43)

【法体の滝】

日本百名山の一つ霊峰鳥海山の東麓、秋田県由利地方を流れる母なる川「子吉川」の源流部にある、未広がりの荘厳な法体の滝は、一の滝、二の滝、三の滝からなり、山頂に面して流れ落ちる滝として知られている。(流長 100m、落差 57.4m)

約 30 アールの滝壺と、一の滝上流部、二の滝河床に見られる大小無数のあうけつ甌穴群は、女川層の珪質泥岩に生じたもので、学術的にも貴重なものとして、秋田県名勝及び天然記念物第一号に指定されている。

滝の前には法体園地が設けられ、新緑から紅葉のシーズンまで、ハイキングやキャンプで賑わっている。

【法内の八本杉】

白ヶ沢国有林の標高 180m の山あいにはスギを交えたブナ・ミズナラの天然林があり、ここに推定樹齢 500 年以上の巨大スギがある。

以前、地上 3m のところから幹が 8 本に分かれていたことが八本杉の名の由来と言われている。枝張りが主幹を通して東西に 23m、南北に 20m、樹高 40m で均衡の整った樹容は壮大で、県内にある天然スギでは最大級のものである。ブナ、ナラ、トチなど周辺の植生とともに貴重な資料とされ周囲 50a は、昭和 56 年 4 月に学術参考保護林に指定されており、昭和 59 年 3 月には、秋田県天然記念物に指定されている。

平成 2 年の「新・日本名木百選」の部門別十選(スギの部)にも選ばれている。

(2) 文化財

表 2-3-2 子吉川流域の国指定文化財

市 町 村	指 定 区 分	名 称	備 考
本 莊 市	国登録有形文化財	齋彌酒造店	建 造 物(H10)
矢 島 町	重要文化財	土田家住宅 一棟	建 造 物(S48)
由 利 町	国登録有形文化財	佐々木家住宅	建 造 物(H14)
大 森 町	重要無形民俗文化財	保呂羽山の霜月神楽	(S52)
	重要文化財	波宇志別神社神楽殿	建 造 物(S55)

表 2-3-3 子吉川流域の県指定文化財

市 町 村	指 定 区 分	名 称	備 考
本 莊 市	有形文化財	永泉寺山門 扇面図脇差拵揃金具 一括 法隆寺一切経	建 造 物(S43) 工 芸(S51) 古 文 書(S27)
	無形民俗文化財	猿倉人形芝居 赤田大仏祭り 日役町獅子踊り	(S49) (H 9) (H12)
鳥 海 町	無形民俗文化財	本海番楽	(S39)
矢 島 町	有形文化財	八幡神社本殿 薬師堂宮殿 金工資料 図譜 12 冊 原型 57 個 糸巻太刀(鞘巻)外装 刀 銘國重依願指料授 魚形文刻石	建 造 物(S28) 建 造 物(S55) 工 芸(S30) 工 芸(S31) 工 芸(H 3) 考 古 資 料(S31)
	有形民俗文化財	旧若宮八幡神社獅子頭二頭一対	(H 3)
	無形民俗文化財	坂之下番楽 木境大物忌神社虫除け祭	(S45) (H13)
由 利 町	無形民俗文化財	屋敷番楽	(S46)
大 内 町	有形文化財	木造聖観音立像一躯	彫 刻(S32)
仁 賀 保 町	無形民俗文化財	冬節番楽	(S39)
		釜ヶ台番楽	(S48)
羽 後 町	無形民俗文化財	仙道番楽	(S39)
大 森 町	有形文化財	保呂羽山波宇志別神社神楽殿 波宇志別神社神楽殿神輿	建 造 物(S54) 工 芸(H 7)
	無形民俗文化財	八沢木獅子舞 保呂羽山霜月神楽	(S40) (S40)

(3) 史跡

代表的な史跡としては、老方で発掘された“湯出野遺跡”がある。昭和52年秋田県教育委員会主体で発掘調査が実施され、遺跡の重要性が確認された。翌年の昭和53年には秋田県の史跡指定となり、東由利町では土壌群地域の環境整備計画を立て、保存に努めている。

その他の主な史跡は以下のとおりである。

表 2-3-4(1) 子吉川流域の史跡

市町村	名称	所在地	備考
本荘市	本荘城址	本荘市出戸町字尾崎	慶長15年(1610)尾崎山に築城、その後六郷氏が本城を改修し本荘城とした。
	菖蒲崎貝塚	本荘市川口字菖蒲崎	約6千年前のもので秋田県内では最古といわれ学術的にも貴重な遺跡
鳥海町	元弘寺跡	鳥海町下川内矢ノ本	貞観12年(871)開基といわれ以前宝教院・矢本坊と称した鳥海山矢島口修験の触頭であった
	梶井館	鳥海町直根字前の沢	天正年間(1573~1592)の構築といわれ、信濃より移住した根井一族の館
矢島町	根城館	矢島町荒沢	信州小諸在大井の庄から矢島の主となって下ったのが大井義久で、この根城館と八森城を築いた
	八森遺跡	矢島町城内字八森	由利十二頭の雄大井氏の古城跡と伝えられている
	土田家	矢島町元町相庭館	国重要文化財 /鳥海山北麓にある農家古式で秋田県下では最古の民家とみられる貴重な建物
	魚形文刻石	矢島町	県指定史跡 /通称鮭石と呼ばれ、原始住民族の経済文化を示唆する希有の遺跡物
由利町	根城館	由利町奉行免	根城館の地名は、文治5年(1189)由利八郎雅平が、叔父根城大毅維晟をここの城主としたことによる
	万箇將軍の墓	由利町町村	支那の宋の国から美玉など宝物を日本の朝廷に献上するため使節として使われたのが「万箇將軍」
	鳴沢館	由利町南福田	文治5年(1189)由利八郎維平が頼朝の恩命を受けて、旧領由利に帰った時に築城したもの
	畑中喜右エ門の墓	由利町吉沢	当時滝沢郷の名主であった喜右エ門は、河川の改修を度々代官所へ訴えたが、代官はその後訴えを憎んで捕えられ打首とした
	滝沢城跡	由利町前郷	滝沢郷1万石の領主兵庫頭政道の居城で山城であった
	巴館跡	由利町字上屋敷	四条天皇の仁治年間(1240~1243)木曾義仲の愛妾・巴御前の一門といわれる巴太郎頼勝の館跡
	神楽殿	由利町前郷	この建物は日枝神社の神楽殿として建てられたようであるが「芝居小屋」とも呼ばれている
	仲八郎政春の墓	由利町奉行免	正中元年(1324)政春は鳥海弥三郎の急襲にあい多くの家臣と共に自害、根城館に果てた
	山田合戦の跡	由利町山本	戊辰戦争の時、津軽藩から連合軍の応援にはせ参じたのは成田求馬を隊長とする一隊であった。この時の合戦を俗に山田合戦という
	竜洞寺		竜洞寺はもと森子八乙女山にあったが、慶長年中領主滝沢政道が滝沢城を築くにあたり移った
	前郷舟着場跡	由利町前郷	子吉川沿岸にはあちこちに舟着場があるが、特にここは鉄道開通の大正末期まで賑わいを呈していた
	八乙女山	由利町森子	養老年間仁賀保から移住したといわれる竜洞荒法師によって開発されたといわれている
	岩舟地蔵	由利町奉行免	名僧智仙は巨石に乗り、それを綱で引く女達のかげ念仏で子吉川を流して来たといわれ、その石に地蔵尊を刻しそれを安置して地蔵堂の本尊とした
	尾留川安彦翁の胸像	由利町前郷日枝神社境内	自治功勞者、東京高師卒後滝沢村長、県議會議員、由利郡農会長として農業組織の前身である信用組合などの活動、育成に力を注いだ

表 2-3-4(2) 子吉川流域の史跡

市町村	名称	所在地	備考
東由利町	高館	東由利町大琴	下村氏の出城跡地といわれ現在の大琴小学校裏手の高台である
	内館	東由利町蔵	下村氏の居城跡といわれる 天然記念物のイチョウ所在地でもある
	根城館	東由利町蔵	蔵と宿の中間、河岸段丘上にある中世の館跡。東南北の三方を高瀬川が囲み、20mを越す断崖をなし約1haの広さがある
	小松四兄弟の碑	東由利町台山東由利中学校庭	東由利町館合出身の小松耕輔・平五郎・清・三樹三音楽四兄弟の顕彰碑
	養田館	東由利町老方	
	湯出野遺跡	東由利町老方字山谷	県指定史跡 /遺跡は縄文後期から晩期(3,500年~2,300年)のもので範囲は東西100m南北200mと推定され、全域からかかずの遺物が発見された
	水上館	東由利町館合字須合田	米本館の出城跡といわれる
	米本館	東由利町館合字館野	由利十二頭の1人玉米氏の居館跡といわれ、西側が20mを越す断崖となっている
大内町	楠正家の墓	大内町岩谷町日渡	楠正家は正成の4代あと、元中8年(1391)奥羽に下向。南北朝統一のあと由利・河辺2郡を統治応永10年(1403)打越城で没した
	才の神遺跡	大内町徳沢才の神	縄文前期から中期にかけて中心的役割をもつ住居跡である。竪穴住居方式。
	鹿瓜縄文遺跡	大内町岩野目沢鹿瓜	鹿瓜地内の丘陵地である縄文晩期の特徴を示す。口土器の出土地として知られている
	折渡地蔵尊と千人がくれ	大内町岩谷麓折渡	旧藩時代、大内町と岩城町を結ぶ街道に、道中安全を祈願した地蔵尊を、赤田の閑居様が再建し霊場とした

2-3-2 歴史

(1) 北前船の時代

亀田藩と本荘藩は子吉川をはさんで向かいあい、それぞれ石脇と古雪に藩の港があった。

江戸時代の寛文年間(1661～1673)には、日本海の西廻り航路が開かれ、弁財船、千石船などとも呼ばれた北前船による交易が盛んになるにつれ、子吉川河口に位置するこの二つの港が有力な寄港地として発展した。

また、西廻り航路のほかに、途中秋田藩の土崎港などを経由する東廻り航路も開かれると、天明年間(1781～1789)を経てさらに隆盛となり、明治末期まで続いた。

北前船の船の大きさは500石から1500石ほどの帆掛け船で、上方と北陸・東北・蝦夷地を結び上方文化と北方文化との交流をはかって日本海沿岸住民に大きな恩恵をもたらした。

由利地方では、石脇、古雪のほかにも、塩越(象潟町)、金浦(金浦町)、三森(仁賀保町)の各港が寄港地として栄えた。

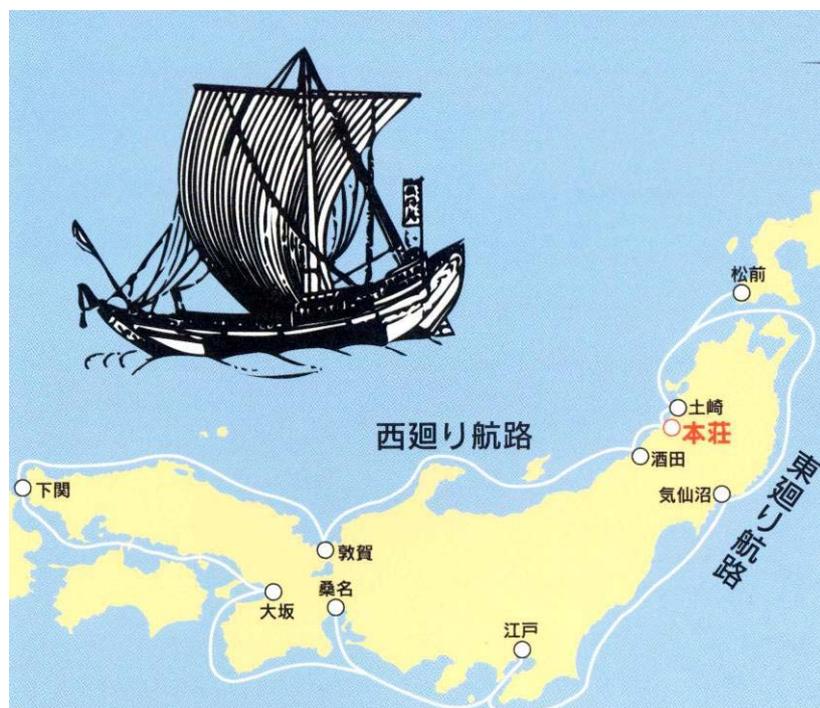


図 2-3-1 北前船の航路図

出典:秋田河川国道事務所資料

(2) 子吉川の舟運

古雪港、石脇港から米・木材を積んで大坂(大阪)に航海した北前船は、代わりに塩や砂糖、古着、工芸品、陶器、雑貨などを運んできた。明治時代には木綿や絹織物などの繊維製品が多くなり、また北海道からは鱈や鮭などの魚類が送られてきた。

子吉川は、それらの物資を舟運によって由利の郡部に配送し、同時のこの地方の主産物である米と木材のほか、木炭、薪、大豆、酒などを港まで運ぶ役割を果たし、由利地方に住む人々にとって物資輸送の大動脈となっていた。

舟着場は下流から川口、二十六木、明法、前郷、新屋敷、滝沢下、高島、釜ヶ淵下、蟹沢、山田(山本)、吉沢、小板戸、築館などがあったことがわかっているが、時代によって盛衰があったようである。

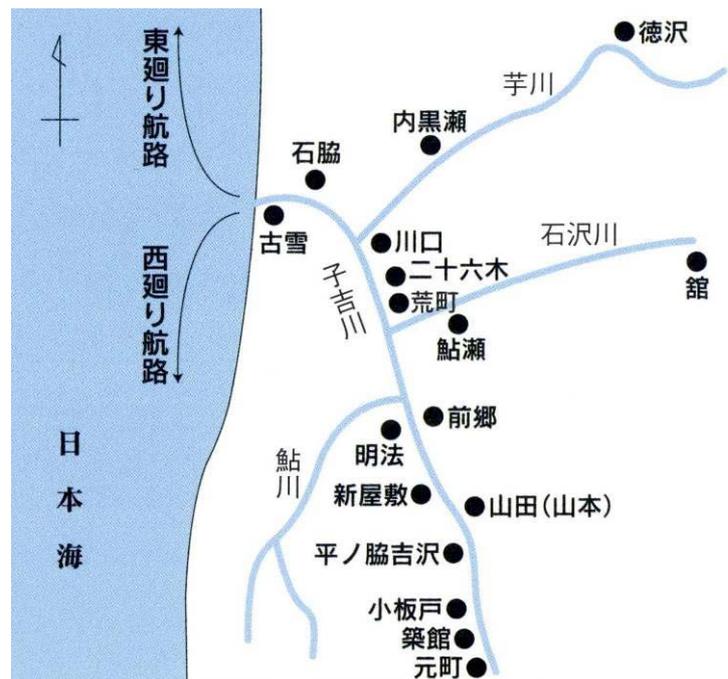


図 2-3-2 明治時代の子吉川水系の舟着場分布図

出典: 秋田河川国道事務所資料

(3) 古刹 四寺

由利橋左岸側下流には、古刹四寺が現存する。泉流寺は 1300 年代の日本海舟運の進展に伴う布教活動時に、そのほかは 1600 年代後半に本荘藩がその政治的中心地を現在の本荘市に移したときに建立された。

四寺は、城下の北方向に位置し、子吉川を挟んだ亀田藩との渡し場が由利橋付近であったということもあり、亀田藩に対する防衛施設としての役割も担っていたとも考えられている。歴史ある空間であり、川と歴史の関わり合いの文化を次世代へ継承するという点で重要な地域である。

【蔵堅寺(ぞうけんじ)】



文明 2 年（1460）創立。その後焼失、明治 26 年再建曹洞宗の名刹。正法寺の末寺、伊藤天海大和尚の書は有名。16 羅漢像、円空仏もある。（曹洞宗）檀家数 450

【泉流寺(せんりゅうじ)】



創立は南北朝時代といわれているが詳でない。金沢の大乗寺の末寺、徳川時代三代將軍家光の紫衣事件の単伝和尚の配流された寺として有名である。（曹洞宗）檀家数 1300

【天然寺(てんねんじ)】



浄土宗鎮西派で、芝増上寺の末寺。松ヶ崎村に開基、元和 8 年（1622）現在地に移る。（浄土宗）檀家数 210

【広誓寺(こうせんじ)】



創め盛岡市に本浄寺を創立し、その後仙北郡六郷に移り善証寺と号したが、天正 6 年（1578）松ヶ崎村に移り広誓寺と改称。寛永 8 年（1631）末現在地に移る。（真宗大谷派）檀家数 310



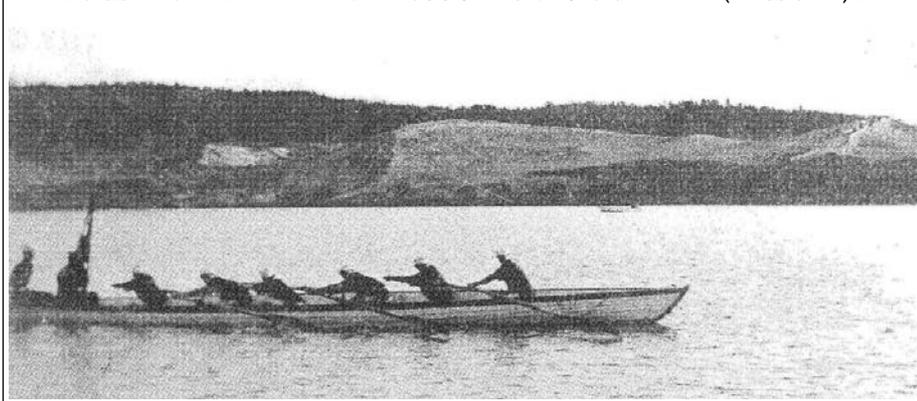
(4) 本荘高校ボート部

本荘では、ボート競技が親しまれているが、そこには、本荘高校ボート部(端艇部^{たんていぶ})の存在がある。当時の県知事武田千代三郎の提唱で、明治35年(1902)の開校(当時は本荘中学校)と同時に設立されて以来、何度も全国大会で優勝を重ね「ボートのまち本荘」の名を高めてきた。

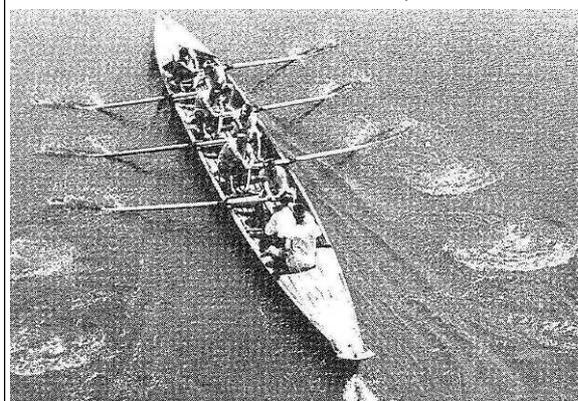
波を切ってすべるように進むボートの練習風景は、今も昔も変わらず、子吉川の河口の名物である。

また、同校の国体優勝(昭和54年)をきっかけとして開催されるようになった「本荘市民ボート大会」は、今では本荘市の一大イベントとなっている。

【子吉川河口近くの田尻浦で練習中の本荘中学校クルー(明治末期)】



【子吉川を行く本荘高校クルー(昭和30年代)】



出典:「子吉川」秋田河川国道事務所

2-3-3 イベント・観光

(1) イベント

子吉川流域の市町では、数多くの行事が催されている。

表 2-3-5 子吉川流域市町の主な年中行事

流域内市町	年 中 行 事 [()内の数値は開催月]
本 荘 市	新山神社裸参り(1) / 本荘凧あげ大会(1) / さくらまつり(4) / つつじまつり(5) / 菖蒲まつり(6) / 子吉川いかだ下り大会(7) / 本荘マリーナ海上祭(7) / 子吉川フェア(7) / 菖蒲カーニバル(8) / 本荘まつり花火大会(8) / 本荘追分全国大会(8) / 赤田大仏祭り(8) / 八幡神社祭典・大名行列(9) / 子吉川はぜつり大会(9) / 市民ポート大会(9) / 全国ごてんまりコンクール(11) / 米まつり(11)
鳥 海 町	丁岳山開き(6) / 新緑祭り(6) / 鳥海山夏山開き(6) / 鳥海獅子まつり(8) / 月山神社祭典(9) / 紅葉まつり(10)
矢 島 町	オの神焼き(1) / 鳥海高原サイクルロードレース大会(8) / 八朔 ^{はっさく} まつり(9) / 花立秋まつり(10)
由 利 町	由利高原冬まつり(2) / ユリの花まつり(7) / ゆり高原ふれあい農場牧場まつり(7) / 由利高原まつり(8) / 前郷日枝神社祭典(9)
仁賀保町	仁賀保雪まつり(1)
東由利町	御獄神社祭典(1) / 雪ものがたり(2) / 雪上野球 W 杯東由利大会(2) / 八塩いこいの森観桜会(4) / 黄桜まつり(5) / 獅子舞・神楽(8) / 鹿島神社祭典(8) / 八塩紅葉まつり(10)
大 内 町	岩谷わたわた(1) / 折渡初地蔵詣り(1) / 長坂稻荷神社梵天奉納まつり(3) / さつきまつり(5) / 折渡地蔵尊まつり(7) / 水掛け地蔵まつり(7) / 芋川まつり(7) / 秋田馬子唄全国大会(9) / 町民祭(10)
大 森 町	波宇志別神社霜月神楽(11)

(2) 観 光

観光資源としては、鳥海国定公園のほかに、支川石沢川の石沢峡が有名である。この地域は石沢峡緑地環境保全地域に指定されており、渓谷やケヤキ群落が主な保全対象となっている。

また、大自然を生かしたキャンプ場などの野外施設が多く、家族向けの施設も完備している。

温泉は、芋川上流(大内町)にある「滝温泉」をはじめとし、各地に点在している。東由利町役場近く、国道 107 号 道の駅「東由利(黄桜の里)」では、温泉入浴施設を完備しており、多くの観光客が利用している。

表 2-3-6 子吉川流域市町の観光名所および観光施設

流域内市町	観光名所 および 観光施設
本 荘 市	「本荘公園」/「菖蒲公園」/「新山公園」/「石沢峡・石沢大滝」/「永泉寺山門」/「三望苑」/「五峰苑」/「赤田の大仏」/「石沢絆の茂里」/「本荘マリーナ海水浴場」/「本荘マリーナオートキャンプ場」/「齋彌酒造店」/「赤田大滝」/「ポートプラザ アクアパル」/「本荘市郷土資料館」
鳥 海 町	「鳥海山」/「法体園地キャンプ場」/「大清水キャンプ場」/「大平キャンプ場」/「鳥海オコジョランドスキー場」/「玉田渓谷」
矢 島 町	「鳥海高原花立牧場公園」/「鳥海高原矢島スキー場」/「矢島町文化保存伝承施設」
由 利 町	「スターハウス コスモワールド」/「サイクリングターミナルやまゆり」/「由利高原オートキャンプ場」/「ゆり高原ふれあい牧場」/「南由利原青少年旅行村」
仁賀保町	「仁賀保高原キャンプ場」/「サイクリングターミナル」/「土田牧場」/「巾山スキー場」
東由利町	「道の駅 東由利 黄桜の里」/「八塩いこいの森」/「大平スキー場」
大 内 町	「道の駅 おおうち はーとぼーと大内」/「大小屋ファミリーランド」/「たんぼぼ館」/「折渡休憩所」/「総合交流ターミナル ぼぼろっこ」/「千体地藏」
大 森 町	「ほろわの里資料館」/「ほろわんパーク(保呂羽山少年自然の家)」

表 2-3-7 子吉川流域市町の温泉

流域内市町	温 泉 名
本 荘 市	鶴舞温泉、安楽温泉、三六温泉、親川温泉
鳥 海 町	猿倉温泉、湯の沢温泉、野宅温泉
矢 島 町	伊豆温泉
由 利 町	ゆりえもん
東由利町	黄桜温泉(湯楽里)、若林の湯
大 内 町	楠の湯(ぼぼろっこ)、かすみ温泉、小羽広温泉、滝温泉、感湯館温泉

2-4 自然公園等の指定状況

子吉川流域の市町村における自然保護関連の指定項目と指定状況は以下のとおりである。数多くの自然、動植物が保護、保全の対象となっている。

表 2-4-1 子吉川流域の自然公園指定状況

公園名	関係市町村	特別地域(ha)			海域	合計(ha)	指定年月日
		第1種	第2種	第3種			
鳥海国定公園	象潟町、仁賀保町 矢島町、鳥海町	333	5,095	10,406	538	16,372	昭 38.7.24

出典：「秋田県生物多様性マップ」(秋田県)

表 2-4-2 子吉川流域の県立自然環境保全地域指定状況

地域名	所在地	面積 (ha)	指定年月日	主な保全対象
みなみゆりはら 南由利原	由利町西沢字南由利原	(74.6) 191.8	S49.11.2	湿原植物群落(ミズショウ、ミツガシワ)草原 植物群落(レンゲツツジ)
とうし 冬師	仁賀保町大字馬場字 冬師山	32.4	S49.11.2	湿地林(ハンノキ、ヤチダモ)、湿原植物 群落(ミズバショウ、ミツガシワ)
ほろはさん 保呂羽山	大森町八沢木字保呂羽山	(10.5) 10.5	S50.2.22	ブナ、ミズナラを主体とする天然林
かりめぎ 刈女木	羽後町大字田代字明通山	33.8	S51.3.30	湿原植物群落(ガリメギイヌノヒゲ、ザゼ ンソウ、ミズチドリ)
ひのと 丁岳	鳥海町字丁森国有林	(88.16) 88.16	S53.1.24	ブナを主体とする天然林、 亜高山性植物

出典：「秋田県生物多様性マップ」(秋田県)

表 2-4-3 子吉川流域の県立緑地環境保全地域指定状況

地域名	所在地	面積 (ha)	指定年月日	主な保全対象
石 沢 峡	本荘市大字鳥田目、大築、山内、 東由利町大字奥ヶ沢、畑村	152.2	S59.5.26	渓谷、ケヤキ群落

出典：「秋田県生物多様性マップ」(秋田県)

表 2-4-4 子吉川流域の鳥獣保護区特別保護地区状況

鳥獣保護	区分	種 類	市町村	期 限	面 積 (ha)
石 脇	県 設	森林鳥獣生息地	本 荘 市	19.10.31	25
小 菅 野	"	"	由 利 町	18.10.31	103
袈 川	"	"	矢 島 町	20.10.31	221
保 呂 羽 山	"	"	大 森 町	20.10.31	45
太 平 山	"	"	羽 後 町	16.10.31	27

出典：「秋田県生物多様性マップ」(秋田県)

表 2-4-5 子吉川流域の特定植物群落一覧表

番号	所在地	群落名	番号	所在地	群落名
58	本荘市	水林のクロマツ林	64	鳥海町	丁岳の植生
59		水林砂丘の森林植生	65		鳥海山の植生
122		赤田大滝のアカマツ林	129		大清水湿原の植生
124		竜馬山のケヤキ林	130		三滝山のブナ林
125		鬼倉山のスギ林	61	由利町	大谷地周辺の植物群落
126		石沢峡のケヤキ林	63	仁賀保町	冬師のハンノキ林
127	矢島町	八塩山のブナ林	120	大内町	加田喜沼湿原の植生
167		鳥海山のミヤマナラ林	121		金峰神社のブナ林
221		桑の木台湿原の植生	49	羽後町	刈女木の湿原
128	鳥海町	袖川のシロヤナギ林	48	大森町	保呂羽山の植生
19	山形県遊佐町	鳥海山山頂東側の雪田植生			

番号は、環境省の特定植物への各県の登録番号

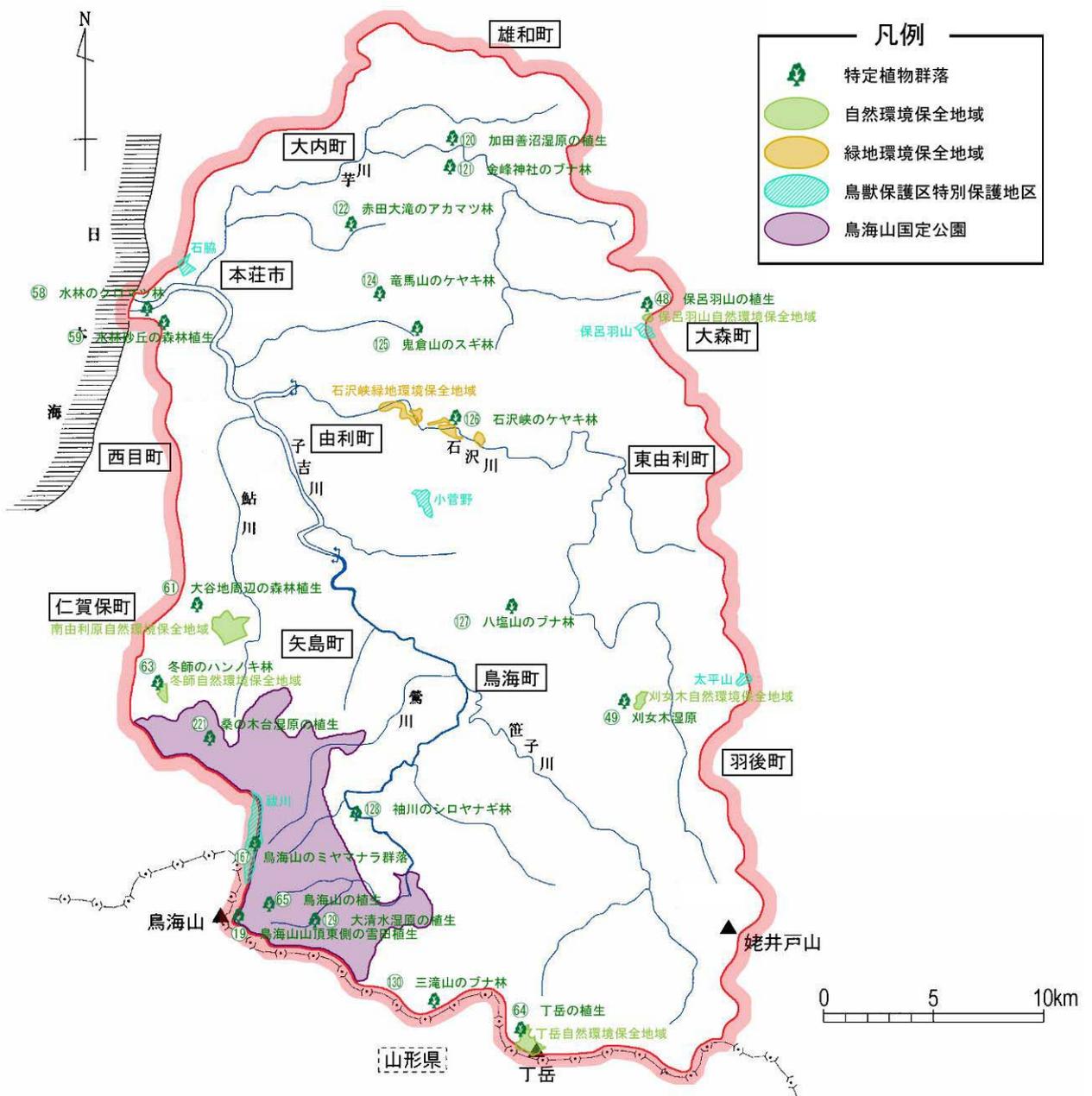


図 2-4 子吉川流域の自然保護概要図

出典：「秋田県生物多様性マップ」(秋田県) / 「自然環境保全基礎調査」(環境省)